



2017年4月15日 発行

2017年春号

<第38号>

編集・発行／社会福祉法人ワークスユニオン 代表／池田直樹 〒551-0001 大阪市大正区三軒家西1丁目17-18 TEL06(6556)0881

特集  
地域の中で

～防災訓練を通して～

僕の最近の出来事

今は匠で、生活したり、パズルをしたり、色紙で鶴やユリを作っています。

作業ではバックルをしたり、袋入れをしたり、メダル入れを作っています。

短期で、洗濯機を使って洗濯をしたり、干したり、乾いた洗濯物をたたんだりいろいろしています。洗濯物をたたむのは大変ですけど、家でもお母さんの手伝いで、干すのとたたむをしています。

短期の自由時間は買い物に今福鶴見の万代まで出かけています。今日の分と明日の分のコピーを買っています。

家では4時に起きてトイレへ行き、そのあと6時まで寝て、起きてから掃除機で掃除を毎日しています。

短期では夕方に掃除機がけをして、いつもきれいに使っています。

短期の洗濯や家でのお母さんの手伝いは疲れるけど毎日しています。

浅野 博行

## 「地域の中で、防災訓練を通して」

今年度、グループホームは、地域防災を通して地域と繋がることを、事業計画に掲げました。地域にワークスユニオンを知ってもらい、いざという時に助け合える関係作りを目指したいと考え、取り組んできました。今年度の取り組みを、「メゾン」と「サンリット」から報告させていただきます。

## 〈メゾン〉

スタートは、地元の町会長さんへご挨拶にいきました。11月に三軒家西小学校で防災訓練が開催されると聞いたので、利用者さんと職員で参加しました。

開催地では100名ほどの方が参加され、三軒家西地域における防災意識の高さに驚きました。訓練内容は、実際の非難時に使う防災グッズの中身を確認しました。次に、実際に避難所で使用するダンボールベットへ横になって体験をしました。利用者さんは初めての参加で、興味深く取り組んでいました。帰りにお土産として、非常食を頂き、グループホームに戻ってからいただく

## きました。

開催後には、防災訓練の情報をいただいた町会長さんへ、お礼の挨拶に伺いました。今後も防災訓練や、それ以外の地域行事の参加、お手伝い等をさせていただきます。また声かけのよ。これから色々参加してね。若い方が来てもらえると助かるよ。」とありがたい言葉をいただきました。

ワークスユニオンが、地域との繋がりをもち、関係性を深めていく事は、利用者さんがよりよい生活を送るために、とても重要な事だと思います。

今年度は、防災訓練以外の地域の行事については、

参加できませんでしたが、来年度は、地域の方と利用者さんが一緒に楽しむことが出来るような行事に参加したいと考えています。来年度も色々な関わりを通じて、地域との連携を深めていけるよう、引き続き取り組んでいきます。

## (横田)

## 〈サンリット〉

4月に、塩草第三町会に入会して、地域の一員として町の皆さんに知って頂く事からはじめました。

次に、町会の新年会に参加しました。その場で、サンリットに住んでいる方々の紹介と、ワークスユニオンとして、障がいのある・なし

にかかわりなく、地域でその人らしく暮らす事を目指している事を伝えました。

町会に参加されている方々は「そうか、そういうことは全然知らなかったわ。」との声をいただき、地域の方々に理解いただきました。

## それと、これまではサン

リットの利用者さんと職員のみで、自主防災訓練は実施していましたが、今回は、塩草地域全体での防災訓練にも参加しました。

現地では、実際に消防署の隊員、警察署の方、防災機器メーカーの方も来られ、緊急時に必要となる、AEDの使い方・消火器の使い方・ロープの結束の仕方、隔壁板の突破訓練・車椅子の使い方等、災害時の対応を実践的に学ぶことができました。

参加した利用者さんも大変興味を持ち、真剣に訓練に参加していました。参加の感想を伺うと、とても面白かった。消防署、警察署の

方と話ができて、嬉しかったとのことでした。

このようにサンリットとして取り組みをしましたが、一年目という事で、職員として初めは、地域の方々とどう関わってよいのか少し戸惑った所もありました。次年度は更に、地域にと

けこんでいけるよう考えていきたいと思っています。そのためにも、普段から地域の方との関わりを大切にしていきたいと考えています。すし、利用者さんが今後、どのように地域の方々と関わっていきのくも見守っていきたく考えています。

## (濱野)



## 法人忘年会

昨年12月23日、ホテル大阪ベイタワーで法人忘年会が開催されました。

ワークスユニオン全体の忘年会で、利用者さんと職員を合わせると、140名ほどになる大きなイベントです。ホテルの会場で行われることもあり、普段とは違った服装を少し意識して皆さん参加されます。例年同様、各テーブルに分かれコースの料理を味わいながら、ゲームやクイズを楽しんだり、歌を歌ったりと、2時間が賑やかに過ぎていきました。

参加される利用者さんの中には久しぶりに顔を合わせる人も多数います。会場内では、周囲のテーブルを回り、顔見知りにおうぐらさしビールを注ぎながら嬉しそうに話しかけている方や、持参したカメラでたくさん写真の写真を撮っている方などいて、各々に楽しまれていた姿がありました。

今回は、これまでと同じく全体で楽しめそうな企画はもちろん、利用者さん自らも楽しみを作れる内容にしようと、乾杯の音頭や司会など、例年以上に多くの利用者さんが参加できるようにしました。

前もって各事業所に協力をしてもらい、事業所にまつわるクイズを発表する係や、司会や乾杯の音頭、景品を渡す係などを募りました。ある事業所では、普段は手を挙げないAさんが自ら希望され、前日はクイズ出題の練習を職員と一緒にしたそうです。司会をした

Bさんは額に汗を掻きながら張り切っていて、後日、「司会どうやった」と嬉しそうに話されていました。景品を渡す係りだったCさんは、ほろ酔い加減で舞台に立ちニコニコと笑っていた姿が印象的でした。

多くの利用者さんが舞台に出たことや、各テーブルからクイズを出題したこと、参加型の形となり、これまでとまた少し違った催しになったのではないかと思います。

会の終盤ではヤングマンを合唱。知っている人が多く、一曲ということもあって、大人数が舞台に出て歌って踊る、といった毎年恒例の光景がありました。

法人全体が一同に会する場としては、この忘年会が唯一のため、日頃ほとんど会うことがない方が交流する機会になっています。これからも年の締めくくりに行事として、大切にしていきたいと思えます。

(野崎)

## ゆきあそび

(2年ぶり2回目)

2月11日に、滋賀県の箱館山スキー場でゆきあそびにいきました。昨年は、雪不足の為中止となったゆきあそび。今年は、昨年の反動か、もしくはみんなの願いが叶ったのか大雪に恵まれました。

行きの道中では、貸し切りバスが雪道を走り暫く動けなくなりましたが、その後予定通りスキー場に到着しました。到着後も豪雪の為予定していた昼食の場所が閉まっているというハプニングが続きましたが、それも楽しみに代え、先頭を歩いてくれたAさんは「次の食堂へ行くぞー」とみんなを引っ張ってくれました。

絶え間なく降り続く雪は利用者さんにとっては物珍しかったようで、みんなテンションがあがり、積もっているパウダースノーへめがけて大の字で飛び込こんでいました。そりで滑った

り、雪合戦では新雪のサラサラで固まりにくい雪を頑張って丸めて楽しんでいました。

今年度は、チームで競い合う雪だるま作りコンテストを行いました。豪華景品を目指して力を合わせて「大きなおにぎりの形」、「人型の雪だるま」作っている途中で終了時間が迫り「かまくら」を作ったチームもいました。

いくつかのハプニングはあったものの最後までみんなで楽しんだゆきあそびとなりました。

(島村)





指示的な言葉かけは、問題となつている行動を消滅させることは可能な場合もあるが、本人の受けたストレスから、以前より強い別の「問題行動」が発生することも多い。

私は、利用者の問題となる行動の中には、本人が楽しめる行動を見つけれず仕方なく行っているものも多いと考えている。

利用者の、この仕方なく行っている行動を科学し、それより楽しく、人にも迷惑のからない活動を一緒に探すことで、問題の改善を図るべきとの私の意図を、この二年間の実践の中で、職員たちは少しずつ理解してくれてきた。

利用者のできないことや苦手なことを支援することは、容易い。

しかし、「他人が迷惑と感じる行動」や「拘り行動」を行なわないようになってもらうことは本当に難しい。

本人と私たち支援者が相互に影響し合いながら「ご本人が楽しめ、他の人にも迷惑とならない新たな活動を探すこと」、これが私たちの支援者の最優先の努力目標なのだ。

職員諸君、頑張ろう！

## 職員紹介

**花村 龍志** (をき たくし)  
趣味は、滝や谷、海などの秘境を訪ねること。看板も立っていないようなマイナーな所が好みだそうです。二十歳の頃には、自転車で北海道を一周したこともあるという彼の冒険心と探求心は人一倍。

以前は、有名ホテルで調理をしていた他、フランスに渡って三ツ星料理店に勤めたこともある料理人ですが、その後、知的な障がいがある方の生活支援に携わり、食事作りとして入職して一年半になります。

料理においても、支援に  
おいても、大事にしている  
ことは「ホスピタリティ(＝  
思いやり)」。丁寧に人と接  
することを心がける彼は、  
食堂から利用者さんを温か  
く見守ります。

**松浦 秀子** (をき さんりつ)  
植物を育てる事が好きで、  
苗を見つけたら即、購入！  
常時十五個ぐらいの鉢に囲  
まれていきます。鉢植えの中  
で育てる事が難しかったの  
がバラと菊で何度か枯らし  
てしまったとか。

今、初めて育てる品種で  
成長を楽しみにしているの  
が愛珠沙華(彼岸花)。夏か  
ら秋にかけて咲くそうです。  
「得意料理は和食」と遠  
慮げみに話をしてくれる彼  
女は、重複障がい者の方の  
ヘルパー経験後、食事作り  
に入職。入ってすぐ職員や  
ヘルパーは利用者さんの意  
思をととても大切にしてい  
ると感じ、彼女もまた同じよ  
うに大切にしていきたいと  
思っています。(原・助野)

## 編集後記

▼広島県民の夢や憧れとな  
り、「原爆投下からの復興の  
旗印にしたい」と親会社を  
持たない「市民球団」とし  
て設立されて68年が経過  
した広島東洋カープ。新球  
場建設時は、県民が自主的  
に募金を行って資金を集め  
るなど、地域とカープとの  
繋がりは深く、年月を重ね  
た結果、県民の中にチーム  
がしっかり根付いている。  
▼今年度、ワークスユニオ  
ンでも「地域との関わり」  
を創ることを事業計画に挙  
げた。地域に溶け込む「市  
民球団」の姿勢をお手本に  
して、ワークスユニオンで  
実現できることを探したい。  
▼防災から始まった地域と  
のつながりをより深いもの  
にするため、今後は「区民  
まつり」等のイベントにブ  
ースを出展したい。▼法人  
を地域に知ってもらおう機  
会を創り、時間をかけて、利  
用者さんと共により強く強  
固にしていきたい。(T)